

# 建設相

## 就職活動 人生みつめる機会

就職の採用試験で受験の代行をしていた会社員が逮捕されたという報道がありました。今回の事件以外にも4千件の「実績」があるとのこと。私は、こうした報道に驚愕すると同時に、日本の国力が落ちてきたと感じました。

内定をもらいたいという気持ちには理解できません。しかし、万

が一こうした不正な手段で就職できたとしても、その先で苦勞するのは自分だということが分からないのでしょうか。

私は何度も司法試験に落ちましたが、やはり落ちたときには理由がありました。合格したときにも理由がありました。落ちた年、まぐれで合格していたら、資質が不十分なまま弁護士とな

って多くの人に迷惑をかけ、自分も苦勞したことでしょう。

就職するというのは、自分の生き方を決めるということでもあります。渋沢栄一は「交際の奥の手は至誠である」と述べていましたが、就職活動は、自分の資質や人生をみつめるまたとない機会です。目先の内定にとらわれず、正々堂々と挑戦してほしいものです。

長野市 板谷健太郎

（弁護士・47）